

地質ニュース

昭和 57 年 4 月

第 332 号

1982

解 説	UNESCO (1976) による 土木地質図—その体系と作成の手引き	黒 田 和 男 遠 藤 秀 典	6
	花粉学の現状とその問題点 その 1—花粉学の現状—	徳 永 重 元	16
	地質図—製図印刷から発行まで—	田 中 憲 一	22
	マンガン団塊の岩石学	白 井 朗	28
海外事情	モロジョージュヌイ石綿鉱床	岸 本 文 男	38
	中国のタングステンシンポジウムに参加して —江西省鶴礦地質討論会 (その 1) —	佐 藤 興 平	47
	地質標本館だより 火山と温泉	茂 野 博 上 村 不二雄 玉 生 志 郎	60
	石 岡 ISHIOKA	坂 本 亨 相 原 輝 雄 野 間 泰 二	62
口 絵	韓国東南部梁山 (Yangsan) 断層	星 野 一 男	

編 集 地 質 調 査 所

表 紙 の 写 真

秋田駒ヶ岳の 1970 年溶岩

秋田駒ヶ岳の 1970—71 年噴火については 本誌第 197 号にもその様子が噴火の写真と共に掲載されたので御記憶の読者も多いと思われる。この写真は西方から撮映したもので 溶岩は右上方の女岳山頂付近から噴出し手前に流下した。溶岩流の表面はとげとげしいクリンカーに覆われ 玄武岩質溶岩の aa lava とよく似た特徴を示す。溶岩流の主流から小さな舌状溶岩が枝分かれした様子や 溶岩流の表面の中央部に流路に沿ってできた溶岩堤防などがよく観察できる。噴火後 10 年以上たった今も女岳山体の表面 及びその近傍のカルデラ底の割れ目からは噴気活動が行われており 地下のマグマはまだ完全に冷えきってはいないものと思われる。

噴火後の研究により火山灰の ^{14}C 年代測定値や それまで報告されていなかった 火砕流の存在などが明らかにされた。また山麓では地熱の調査が新たに進められ 企業の手によって 1,500m 深の試錐が北西斜面で掘られるなど 噴火以来の脚光を現在浴びている火山でもある。

(写真・文 須藤 茂)

発 行 株 式 会 社 実 業 公 報 社